

# 対応口径の拡大へ

## YONE 3D SEAL分水栓

YONE（本社＝京都市、米田哲三社長）が本格展開に向けて事業体と共同研究を進める次世代分水栓「3D SEAL分水栓」の対応口径の拡大を目的とした実現場施工が7月初旬に備前市内で実施され、迅速な施工を実現したほか、このほど施工後の経過観察を経てφ600mmへの適用性を確認した。対応口径の拡大はさらなる普及展開の弾みになるほか、従来のサドル付分水栓と比較してコストメリットを發揮することも可能となる。

「3D SEAL分水栓」は、既存分水栓と比べ防止、地震動等の変位



優れた施工性を發揮

### 備前市で試験施工 φ600mmに迅速設置

による分水栓本体の破損や漏水の発生抑制をサドルレスで実現したもの。取り出し口が360度調整できるため施工後の操作性も良く、穿孔断面を3方向からゴムが包む構造のため、掘削時に油圧シヨベルが分水栓に引っ掛かり発生する漏水にも強い効果を發揮する。

同社ではこれまで富田林市との共同研究などを通じてφ75～300mm（対応管種＝ダクタイル鋳鉄管）まで適用することを確認していたが、今

設置を完了した状態



回の実現場施工ではφ600mm（ダクタイル鋳鉄管）の配水管に「3D SEAL分水栓」の取り付けを実施。同社の担当者から掘削、取り付けまでを20分程度で完了するなどスピーディな施工となった。

「地元業者が使用できるように施工手順の講習等をメーカーが徹底するなど、業者への定着が必要と感じたことも事実だが、本市としては新しい工法を試すことで、知見を深めていきたい」と前向きな感想を述べた。

「フィールド提供を行い、施工の様子などを見学した備前市建設部水道課の担当者は「今回は点検口の内部にある管路での施工だったが、従前の分水栓と比較して道路掘削の幅や深さが少なく済むというメリットがある」と語つつ、「